国政報告会を開催 日本を再び世界一の国へ

山本左近の活動はこちら

H.P.

8月27日、地元豊橋と田原で国政報告会を開催させていただきました。多くの皆さまにご参加いただき心から感謝申し上げます。

《再び国政を目指す》

昨年の衆院選で落選して10ヶ月。落選日の翌朝から、豊橋駅で挨拶を続け、地元の様々なイベントに参加し、ミニ集会も精力的に開催させていただいています。

地域の皆さまと接するこの時間は大変貴重なもので、その声を1日でも早く国政に届け、地元のために力を尽くしたいと思っています。

《私の原点》

私の原点はF1レーサーとして世界と戦った日々。諦めることなく挑戦することの大切さを知りました。19歳で単身ヨーロッパに渡った頃は、「メイド・イン・ジャパン」が輝く時代。日本は世界の憧れでした。ところが、徐々に日本の力が弱まり、外国の企業に追い抜かれていくのを目の当たりにし、『日本人であること』を強く意識し、戦ってきた私としては大変悔しい思いをしました。

《政治家を志した理由》

『技術で勝って、ビジネスで負ける』とよく言われます。実際、日本は技術はあっても、マーケットの分析や挑戦心、スピード感を

欠いたことや、国の国際戦略や国民連携も十分でなかった結果、競争力を失いました。

ここ豊橋・田原にも、価値ある技術を持つ多くの企業や世界に誇れる品質の農業があります。私はこの価値を最大限発揮し、競争力も高められるように取り組みたい。海外で得た私の知見や経験を総動員し、この地元から日本の底力を強め、日本をまた世界の中心で輝かせたい。

《衆議院議員時代の取組み》

現職の3年の間に、**文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官にも任命**され、科学技術や文化を担当。Spring8のアップグレードや、コンテンツ産業の人材育成などに取り組みました。

石油に代わり得る「**合成燃料**」の国内製造を強力に推進。1日160リットルを製造できる実証プラントを実現。レースの世界も結果が全てですが、政治も結果が全て。一期生でも志を強く持って活動すれば、国のエネルギー政策といった重要政策にも影響を与えることができるのです。

《私が目指す未来》

今、日本は未曾有の少子高齢化と人口減少社会。過去に答えはなく、**前例主義は通用しません**。私はこれまで、新たなことに挑戦し、

未来を切り拓いてきました。人口減少社会で生産性を高めることは困難な課題ですが、日本が世界に誇る優秀な人材と科学技術でイノベーションを起こせば、**実現できる未来**。具体的には農業や社会保険分野などでもAIやデジタルなどを適切に活用していきましよう。

外国人政策にも取り組みます。私自身が外国人として海外で生活してきたからこそ、その国の言葉や習慣・文化を学ぶことの重要性、違法行為には厳しく対応する必要があります。適切な共生社会を実現します。道路・港湾・通信などの**インフラ整備**も着実に進め、地域と国の発展を支える基盤を作ります。

「Japan as No.1 ag ain!」

私は、日本の底力を信じています。ここ豊橋・田原には農業、ものづくり、観光、エネルギーなどの強みがあり、日本を変える力を秘めています。常に**世界の中心で日本が輝くために**、みなさんの生命財産、領土領海領空を守り、**日本を世界から信頼され、尊敬され、愛される国にするために**、仕事をさせていただきます。皆さま、どうかよろしくお願い致します。

前衆議院議員

山本左近

不屈の
三河武士

《やまもと・さこん》

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。43歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

日本を再び世界一の国へ ～Japan as No. 1 Again～

冒頭、河合伴治後援会長からは、「日本が世界の中心で輝く国となるためには、若くから世界を経験しグローバルな視点を持ち、誰よりも日本の良さを実感し、この国を愛する彼のような存在が、ここ豊橋や田原に必要な。皆さんには、落選中の身である山本左近くんをこの地から再び国政に送るべく、ご支援ご指導賜りたい。」とご挨拶いただきました。

日本が元気になるきっかけを、豊橋・田原からつくっていく
世界から信頼され、尊敬され、愛される国にするために
日本の未来を切り拓いていく

第一回サコンカップ のんほいサーキット

監修した「のんほいサーキット」にて、第一回サコンカップ

小学生から78才まで幅広い皆さんにカート体験いただきました！
夕刻のトワイライトタイムからナイトレースは昼間とまた違った面白さ。
子どもたちもカート初体験！楽しかった！と興奮した笑顔が嬉しかったです。

出典：山本左近事務所